

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成16年7月(2004年) No.463

超満員で立見の出る盛況でした 安居良枝さんを偲ぶ映写会・無事終了

去る7月4日(日曜日)午後行なわれました良枝さんを偲ぶ映写会は、事前の観客動員数が読めず、100名程度の方が来ていただければ一応成功と考え、椅子も100脚用意していました。ところが開場12時30分までに、既に入場者が椅子の半分以上を占め、その後もどんどん人があふれだしたので、あわててありったけの椅子を倉庫から出して並べました。それでも開会の1時前には立見が出始めたので、止むなくOMCやOVCの会員さん等に席を一般の人にゆずって頂くというアナウンスで、ようやく開会にこぎつけました。後で判ったことですが、定員120名のところに御芳名を書いていただいた方だけで226名に達していたとか。全く予想外の、うれしい誤算でした。

これもひとえに良枝さんの人徳のたまものではないかと推察します。人に愛される性格の持主で、テキを作らない明るい人柄が、人々を会場に惹き付けたのでしょう。もっとも作品も全国コンに入賞したものを中心にプログラムを組んだので、作品に対する期待感も大きかった筈です。

こういう催しは初めての経験で、どういう準備をしたらよいか、迷いながら当初15名程の発起人という形でスタートしたのですが、その後、発起人も35名の多きに達して、いかに良枝さんが人から好かれていたかの証にもなりました。

お花好きだった良枝さんのことを偲びOMCのほか、大阪ビデオクラブ、平野映像塾、日本アマチュア映像作家連盟等から供花があり、舞台を飾りました。今回の催しにご協力いただいた会員諸氏に感謝します。(合原)

7例会のお知らせ

7月例会は24日(第4土曜日)18時より、難波市民学習センター(JR難波駅上OCATビル4階)にて開催します。暑い盛りですが会場は冷氣満々で一寸した避暑気分になれます。このところ出席者、出品数とも増えています。どうかお早めにお越しください。

「偲ぶ映写会」謝辞 安居利次

立ち見席が出るほどの盛會にわが目を疑いました。「よかったね、よかったね、」クラブの人たちが終わったあと口々に言っていたくのを聞き夢の中にいるような気持ちでした。

今回ご来場者カードを見ますと、OMC、OVC、平野映像塾など友好クラブの関係者33%、公開映写会（はがきの案内の郵送者）43%、故良枝の個人的関係者（近所の人等を含む）24%でした。

一介のビデオクラブ会員でしかなかった故良枝の映写会がこんなに盛會に終了できたのは合原会長の方ならぬ肝いりがあったのは言うまでもありません。その上、生前良枝と親しく付き合っていたいただいた会員さんたちがそれぞれ誠心誠意、會を成功させるために尽くしていただいた賜物です。どういってお礼を言ったらいいかわかりません。旅立った良枝にとって最高の供養になったと心から思います。本当にありがとうございました。

OMCフェスティバル

10月3日（日）中央會館にて開催

秋の土曜、日曜日の公開映写會會場を確保するのはクジ運次第で大変困難な面がありますが、このほど中央會館講堂が無事予約できました。同會場希望者5名中1位のクジを当てたのは幸運でした。

7月例會までの作品の中から出品作品を選定しますが、一部8月例會発表作品も考慮します。8月例會前の世話役會でプログラム編成し、速やかに印刷に回します。

今年も内容のあるいい作品を集めて、さすが伝統のOMCの発表會だと評価を更に確立していきたいと思ひます。

■大阪アマチュア映像連盟の映像祭

11月3日（文化の日）中央図書館で上記、連盟の発表映写會の日時が決定されました。OMCからも1~3本の枠で出品予定で、これから選定に入ります。

■予告：世話役會を8月例會日の午後、中央會館にて開催、追って通知します。

沼島撮影會作品コンテストは前田氏に凱歌

6月例會で、5月に行なわれた沼島撮影會作品コンテストを出品者以外の全出席者による公開審査を行なった結果は、次の通りとなりました。

最優秀賞	前田茂夫氏
沼島島祭り（ワイド）	11分50秒
優秀賞	関剛氏
沼島の祭（ワイド）	9分0秒
秀作賞	有村博氏
沼島	13分0秒
佳作	江村一郎氏
海に入る地車	8分0秒
以下全員「努力賞」（順不同）	

進藤氏：沼島祭に燃ゆ（ワイド）	12分22秒
河合氏：チョーサジャー	6分50秒
渡辺氏：沼島の祭	11分17秒
吉岡氏：沼島の勇壮な夏祭	9分57秒
岡本氏：島のお祭	8分30秒
奥氏：春まつり	9分50秒
森氏：沼島八幡祭り	10分10秒
増池氏：沼島のお祭り	11分35秒

森田氏：沼島八幡宮春祭	8分30秒
合原氏：沼島・祭りの頃	10分0秒

参加15名中14名が出品

撮影會には15名の方が参加されましたが、作品出品数は岩井さんを除く全員が出品するという予想外の作品数にびっくりしました。勇壮な祭りを皆さん張り切って作品にまとめられた努力の跡が見られました。今回は前田、関、進藤の3氏がワイドで出品されました。テレビで例會をやっていたときは考えられないことでしたが、例會でもプロジェクターで容易に対応できることから、これからもワイド作品が増えてくることでしょう。

撮影會作品ではいつも圧倒的な強さを発揮される前田さん、今回も最優秀賞をは獲得されました。受賞上位4氏の作品はさすがによくまとまっていてベテランの強さ充分でした。しかし努力賞作品もみなよく出来ていて甲乙つけがたい出来映えでした。

6月例会のレポート

今月は沼島撮影会作品公開審査日なので一般作品は5本の申込みがありました。時間の関係で珍しく出席された石垣氏の作品1本だけの上映に終わりました。上映出来なかった有村氏、小竹氏、紙本氏、山本氏の作品は7月例会で優先上映します。

■出席者：有村、石垣、今井、江村、岡本、奥、金子、紙本、河合、小竹、合原、進藤、関、華岡、藤原、前田、増池、松本、宮崎、森口、森、森田、森下、山本、安居、吉岡、渡辺の27氏。司会：合原、書記：安居、デッキ：増池、河合、岡本、受付：渡辺、宮崎の各氏で会を進行しました。

■上映作品(今月の担当は安居世話役です)
撮影会作品短評

1. 沼島八幡祭礼

森 保信さん 10分10秒

タイトル通り、八幡さんの祭礼を中心に克明に撮っておられます。巫女さんの神楽は他の人がナレで言われていたように練習の成果かすばらしいものでした。海を背景にした神主さんの祝詞も沼島ならではのシーンです。終盤、次から次へと神輿が連続して海に入っていく編集方法は圧巻でした。

2. 春祭り

奥 宏さん 9分50秒

沼島の楽しい春祭りの様子がよく表現されています。軽快な太鼓の音にあわして地車に乗って踊っている人、担いでいる人、みている人、短いカットでたたみかけるようにうまく編集されています。太鼓をたたく年配漁師さんの顔のアップは満面の笑顔とともにいつまでも心に残るカットでした。

3. 沼島八幡宮春祭

森田光春さん 8分30秒

森田さんは行動力が抜群ですので、撮影位置が豊富です。ほかの人には撮れないカットが随所にみられます。ご自分が海の中に入ってカメラを回されているのでそのぶん迫力があります。海の中で神輿を担いでいる人たちは髪型と服装だけでは男女の区別は難しいですが、それを推理するのも楽

しみの一つでした。(こら！不謹慎だぞ！)

4. 沼島の勇壮な夏祭り

吉岡貞夫さん 9分57秒

沼島1000軒という繁栄時の島の様子をインタビューでうまく聞きだしておられます。スーパーを入れていただいたので、よくわかりました。「5月に夏祭り」の由縁も島を出た若者たちの連休でないともどってこれないという社会事情があったのですね。そうゆう背景を描きながら勇壮な祭りの情景を描いておられるので説得力がありました。

5. 沼島の祭(ワイド)

関 剛さん 9分

太鼓をたたくアップ画面とその音の繰り返し、その間に島の人々の表情が挿入されます。1分ほどのシーンが観ている私たちのところを捕まえます。中間後半もそうです。やはり関さんの編集は「音ありき」なのです。現場のリズムのある音を主体にカットをつなぐ、分析はたやすいですが、作るとなるとやはり感性なのでしょう。2位の貫禄充分の作品でした。

6. チョーサジャー

河合源七郎さん 6分50秒

タイトルは御輿を担いだ人々の掛け声だそうです。アップにされた人の口元からこの言葉がでていました。そのことを意識して画面をみていると「チョーサジャー」が古来からの沼島水軍の伝統を今に伝えているようで、海に入りながら御輿を担ぐ中年の女性は在りし日、幻の水軍のヒロインのような気がしました。個人的には好きな作品です。

7. 沼島祭りの頃

合原一夫さん 10分

奉納された夏祭りの絵馬から現実の祭りにオーバーラップする導入画面、オーソドックスですが効果があります。アップの多い皆さんのカットの中で合原さんの御輿の俯瞰カットは秀逸です。入り江をうまく利用した御輿の「海入り」のカットで撮影会の全体像がイメージできました。さらに雨の降りしきる海入りのカット、ラストの雨だけのカットも印象的でした。

8. 沼島

有村 博さん 13分

司馬遼太郎「菜の花の沖」の引用文は沼島衆の歴史を端的に表現してうまく利用されたと感じました。ナレもタイトルのように抑えた語調で編集されています。そのくせあちこちに祭りの威勢のいい雰囲気が出しています。勇壮な祭りを表現するのに逆説的な方法もあるんだと学んだ作品でした。

9. 沼島島祭り (ワイド)

前田茂夫さん 11分55秒

観ていてわかりやすい作品です。投票者が撮影会に参加してない人々なのでから第一位に輝くのが全員納得です。ナレも解説だけにとどまらずご自分の意見を主張されています。特にラストの雨のなか海入りする御輿のシーンと雷光音の中引き上げてくるカットが印象に残りました。それを助けたのがぴったりのBGMでした。

11. 沼島の祭り

渡辺雄史さん 11分17秒

宵祭りと翌日の本祭りに分けて編集されています。宵祭りに八幡宮下に集まった地車群を俯瞰で撮られているのが圧巻でした。そのうちの一つ「引き地車」をアップにした時、地車の最上段にならんだ子供たちに笑顔。「かき地車」をチョーサジャーと差し上げたときクス玉が割れて紙ふぶきが舞うシーン、感動的なカットを多く撮られています。すばらしい作品でした。

11. 沼島のお祭り

増池 茂さん 11分35秒

増池さんのしっかりした構図で沼島の紹介が展開します。アベックと一緒に八幡さんの階段を上りふと振り向くと鳥居の影から御輿の姿、祭りの導入部の展開です。「かきだんじり」は大きなタイヤが2個ついていたのですね、これでは海に入っても浮いていません。入らない理由がはっきりしました。OMCの連中の撮影風景がカットの中に散見できて楽しい映像でした。

12. 海に入る地車

江村一郎さん 8分

前半、海に入る御輿を歓声とともに撮っておられるカットがあります。その直後、音が消え、画面は一転して漁船がゆっくり

と右から左へと航行していきます。このつなぎに感動しました。さすが江村さん。石段からおりの御輿、緊迫したBGMとともに江村さん得意の超アップカットがつづきます。そしてクライマックスの「海入り」、見ていてひきこまれます。そして最後は海に入った御輿の遠景で終り、情緒たっぷりの余韻を残しました。

13. 島のお祭り

岡本至弘さん 8分30秒

明瞭な解説ナレがよかったです。インサートカットの子供の笑顔、日焼けした老漁師さんの細く笑んだ目、沼島ならではのカットは見ている人の心にいつまでも残ることでしょう。翌日降りしきる雨の中を、ものともせず男たちと一緒に御輿を担いでいた女性も強い印象でした。最後に海を見ている岡本さんの横顔も・・・よかった。

14. 沼島祭りに燃ゆ (ワイド)

進藤信男さん 12分20秒

「沼島1000軒、宝の島よ、鯛が鯛より3匹多い」今は御多分にもれず過疎の島となってしまったが祭りの時だけは若者たちも里帰りして島全体が熱気で燃えます。進藤さんは手馴れたワイドで御輿を担ぐ人々のその熱気をもうまく撮影されています。横に広がっただんじり曳航はワイド画面にぴったりだとうなずきました。

■例会作品

5作品ありましたが、時間がなかったので、石垣禎章さんの作品だけを上映しました、
卯の花 石垣禎章さん 4分10秒

住吉大社東南の鳥居近くにある「卯の花苑」を訪れられたときの模様を作品にしておられます。ここは5月の初旬「卯の花神事」が石舞台で行われるのにちなんで、神事の前後10日ほどしか立ち入れない「卯の花宴」なのです。ほんとは狭い場所なのですがうまくとられているので、情緒たっぷりの場所に描かれています。奥様の演出もぴったりあっています。めったにお目にかかれない卯の花、「赤い卯の花」まである珍しいところを撮影されてました。

以上で例会を終え、それぞれ喫茶組と酒宴組とに別れて席を移しました。